

オンライン診療に関するアンケート集計結果

日本オンライン診療研究会

概要 オンライン診療に関するアンケート（医師向け）

背景

第一回の検討会において、オンライン診療の実態について調査する必要があるという意見があった。今回、厚生労働省は、急遽、オンライン診療研究会に実態把握のためのアンケート調査を、日本オンライン診療研究会に依頼をとりまとめを行った。

○調査対象

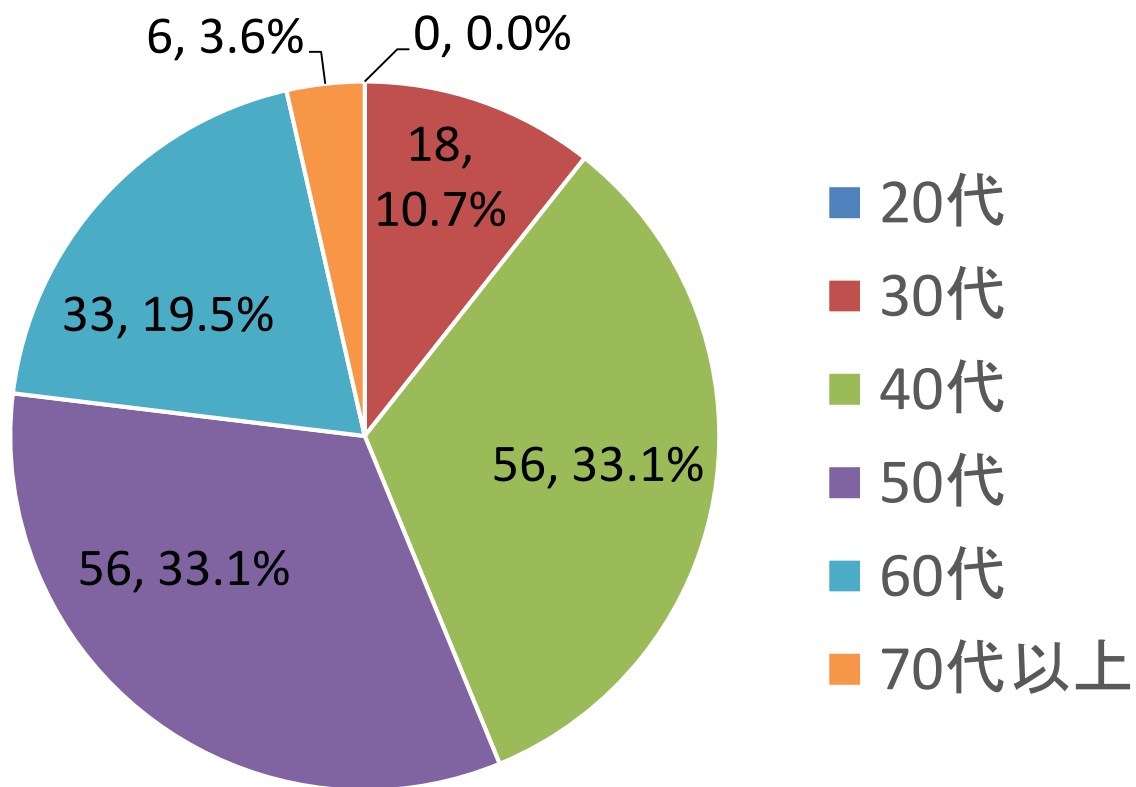
- 実際にオンライン診療を実施している医師
- 回答者数 169人

○調査期間

- 2019年1月28日（月）～2月18日（月）

ご年齢を教えてください。 N=169

「40代」、「50代」がともに33.1%で最も多く、次いで、「60代」が19.5%となっている。

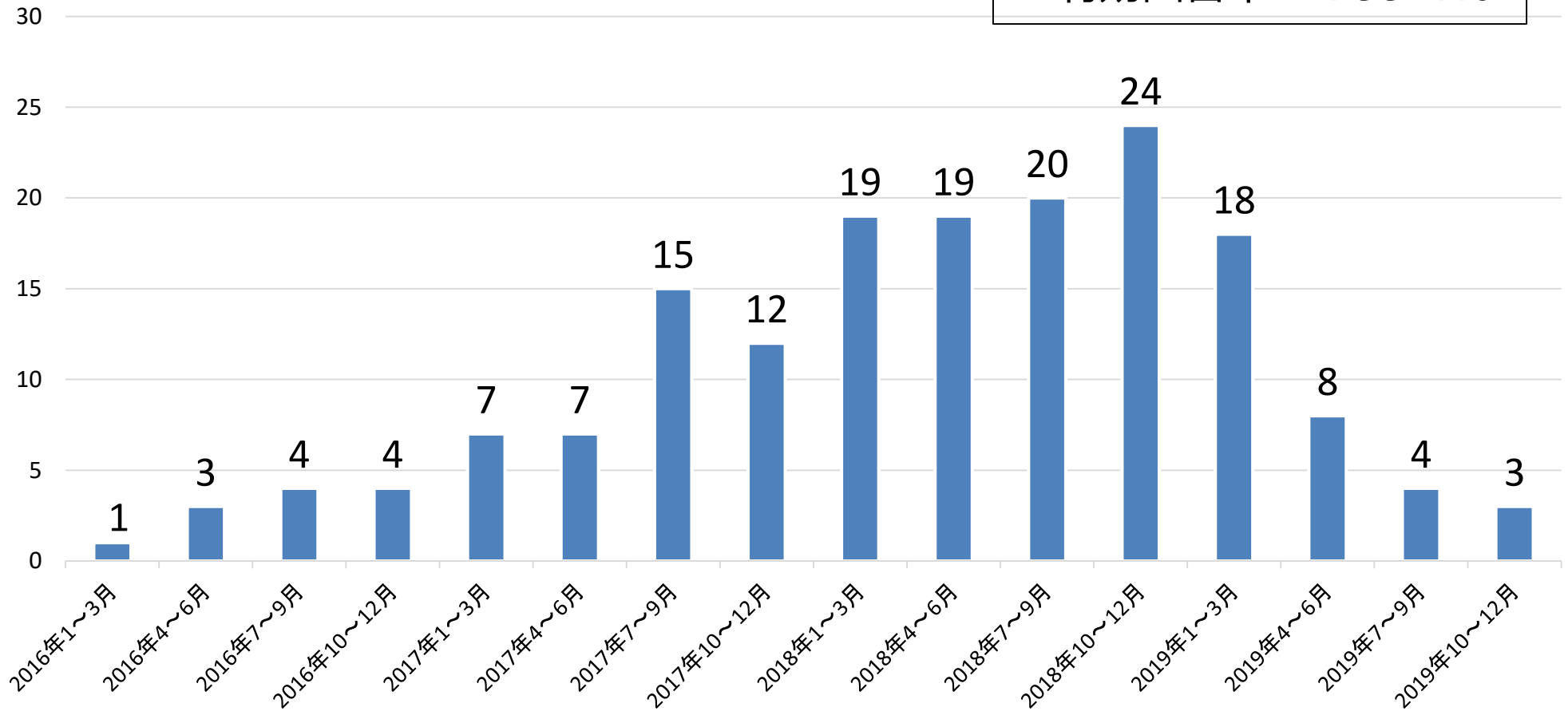


- 有効回答数 : 169
- 有効回答率 : 100%

いつからオンライン診療（遠隔診療）を実施していますか。 N=169

「2018年10月～12月」が24名で最も多く、次いで、「2018年7月～9月」が20名であった。

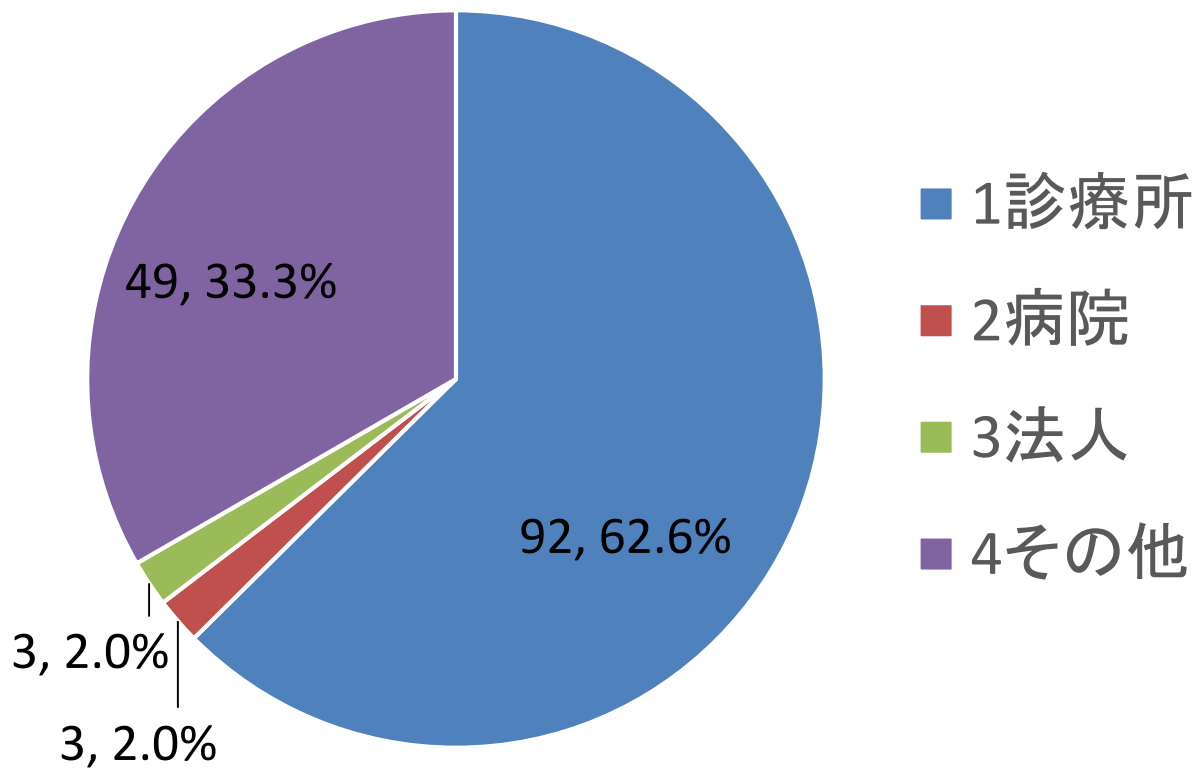
- 有効回答数 : 168
- 有効回答率 : 99.4%



ご所属の医療機関名をご記入ください。 N=169

「診療所」が92名（57.1%）で最も多い。

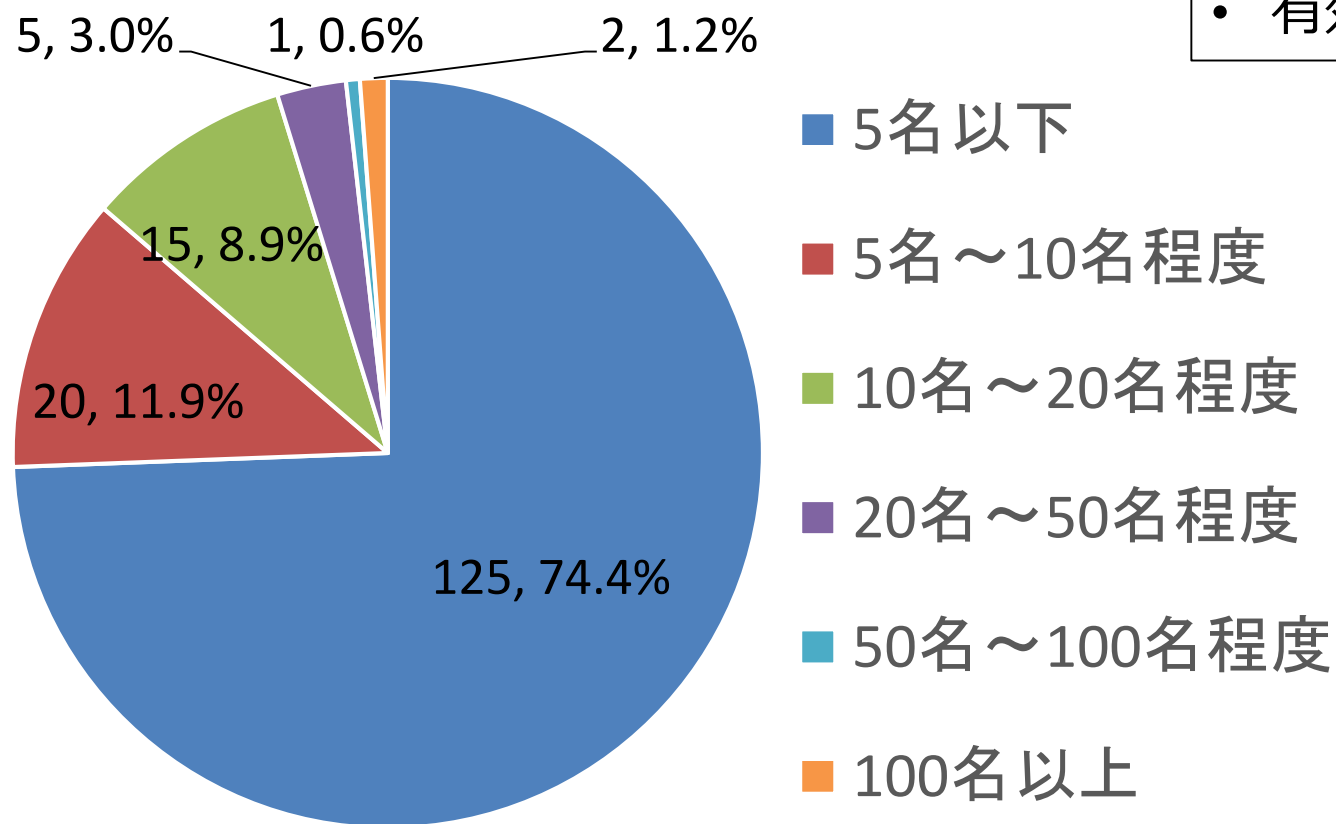
- 有効回答数 : 148
- 有効回答率 88.1%



現在、上記医療機関でオンライン診療を導入している患者数は毎月約何名ですか。 N=169

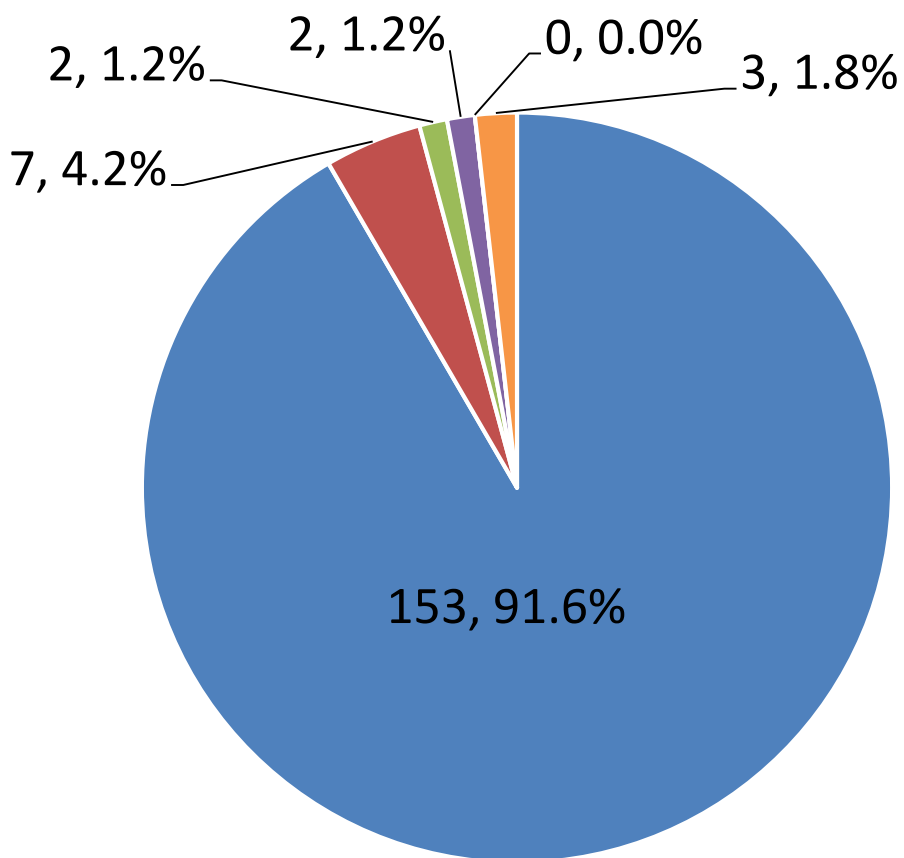
「5名以下」が74.4%で最も多く、次いで、「5名～10名程度」が11.9%となっている。

- 有効回答数 : 168
- 有効回答率 : 99.4%



上記の患者のうちどの程度の割合が在宅診療の患者ですか。 N=169

「在宅診療以外の患者」が91.6%で最も多く、次いで、「20%未満」が4.2%となっている。

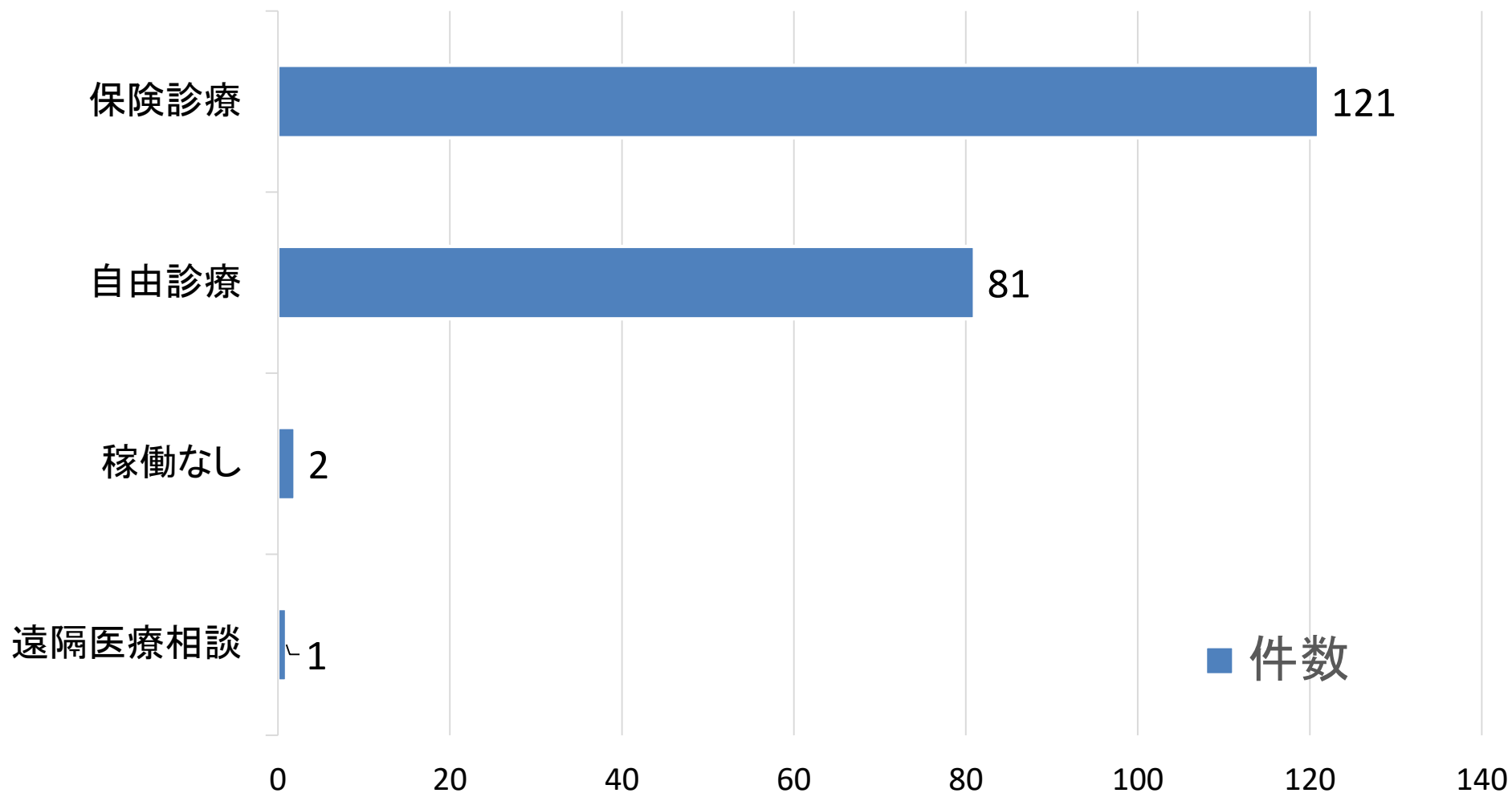


- 有効回答数 : 167
- 有効回答率 : 98.8%

- 在宅診療以外の患者
- 20%未満
- 20~40%
- 40~60%
- 60~80%
- 80~100%

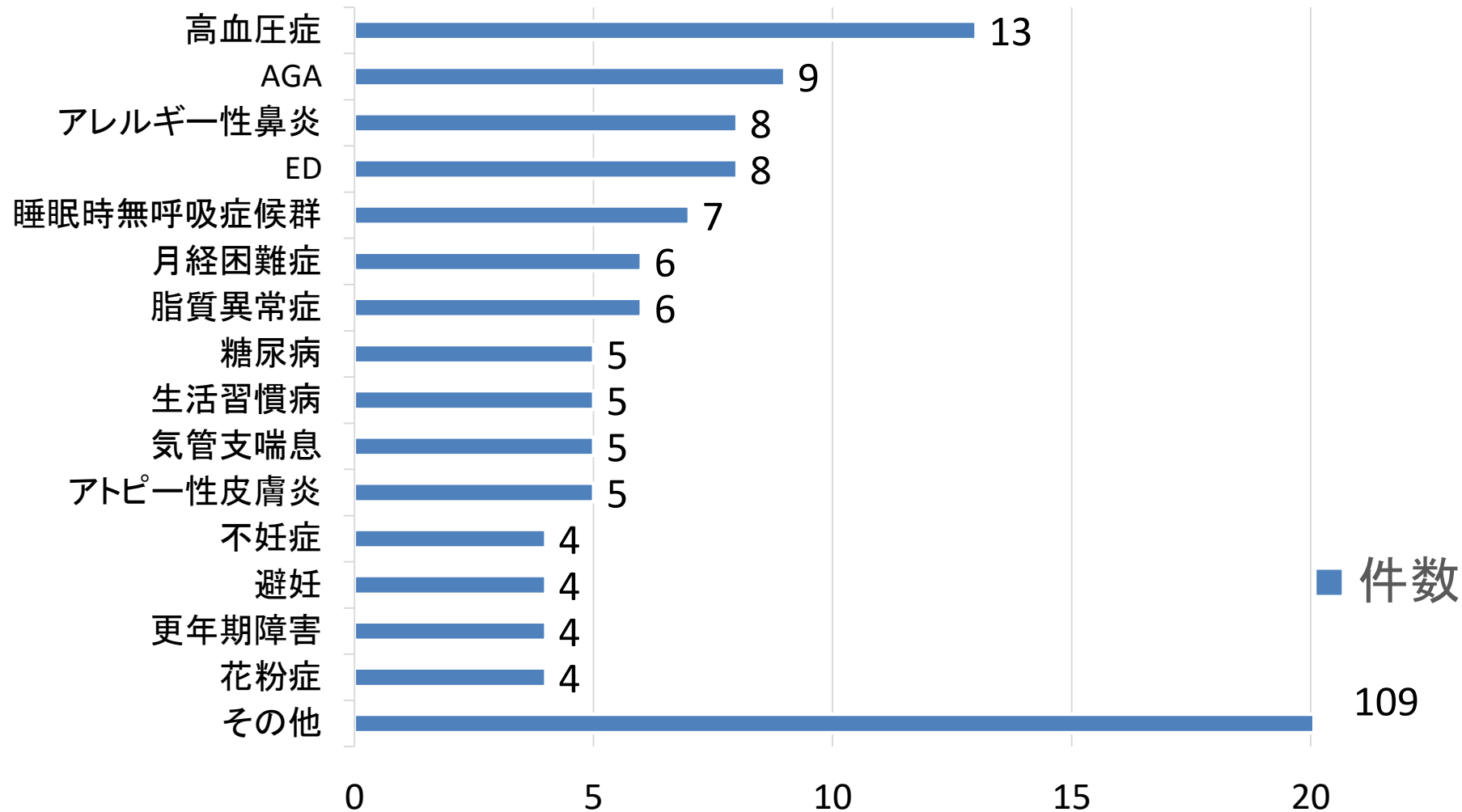
日頃オンライン診療を用いている診療の種別を下記からお答えください。（複数回答）

「保険診療」が121件の回答数で最も多く、次いで、「自由診療」が81件となっている。



オンライン診療を用いて治療を行っている主な対象疾患を列挙してください。（複数回答）

「高血圧症」が13件の回答数で最も多く、次いで、「AGA」が9件となっている。



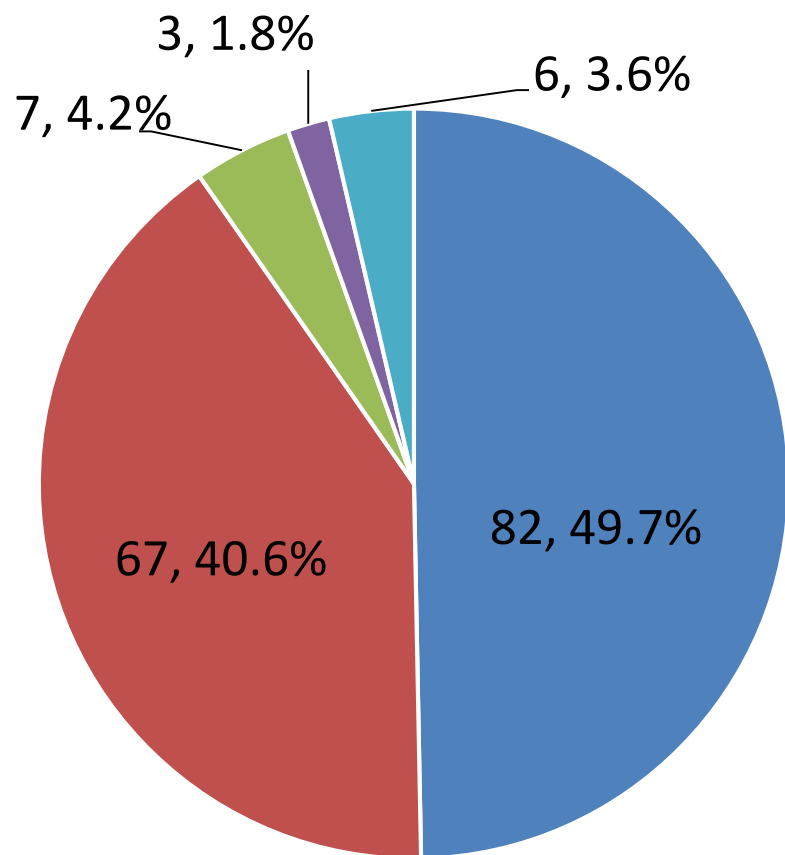
オンライン診療を用いて治療を行なっている主な対象疾患を列挙してください。その他内容

「その他」109件の内訳として、以下の回答が得られた。

ADHD	PTSD	腰痛症	訪問診療
インフルエンザ	アレルギー性皮膚炎	社会不安障害	慢性前立腺炎
てんかん	サプリメント処方	若年性のがん患者への妊孕性	喘息
パニック障害	ざ瘡	温存	嚥下障害
起立性調節障害	しみ	術後診察	鬱病
強迫性障害	トウレット症候群	症状相談	
子宮内膜症	ブライダルチェック	神経発達症	
自閉症	まつげ外来	水虫	
睡眠障害	めまい症	椎間板ヘルニア	
双極性障害	レーザー後経過観察	痛風	
頭痛	胃炎	潰瘍性大腸炎	
難聴児	遺伝性ジストニア	統合失調症	
発達障害	遺伝性痙性対麻痺	二次健診の結果説明	
便秘症	音声障害	乳児湿疹	
慢性疼痛	乾癬	認知症	
脊柱管狭窄症	顔面色素斑	熱傷	
うつ病	急性疾患(電話再診の形のみ)	脳性麻痺	
高尿酸血症	禁煙治療	皮膚疾患	
舌下免疫療法	交通外傷後遺症	美肌相談	
慢性蕁麻疹	甲状腺機能低下症	貧血	
		不安神経症	

患者がオンライン診療を希望する旨はどのように確認していますか。 N=169

「書面」が49.7%で最も多く、次いで、「口頭のみ」が40.6%となっている。

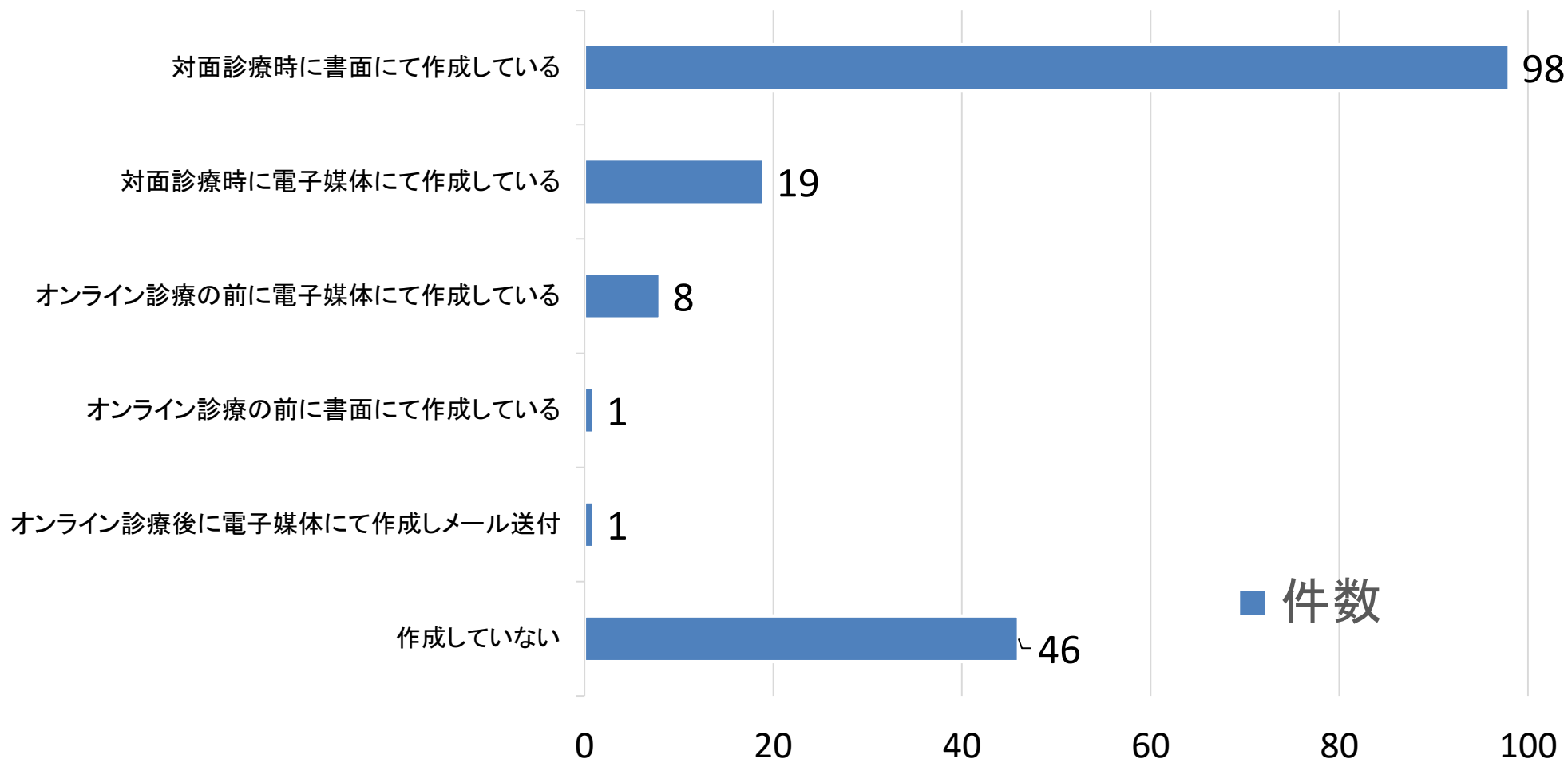


- 有効回答数 : 165
- 有効回答率 : 97.6%

- 書面
- 口頭のみ
- 電子媒体に電子的署名
- 予約=希望と解釈
- 確認していない

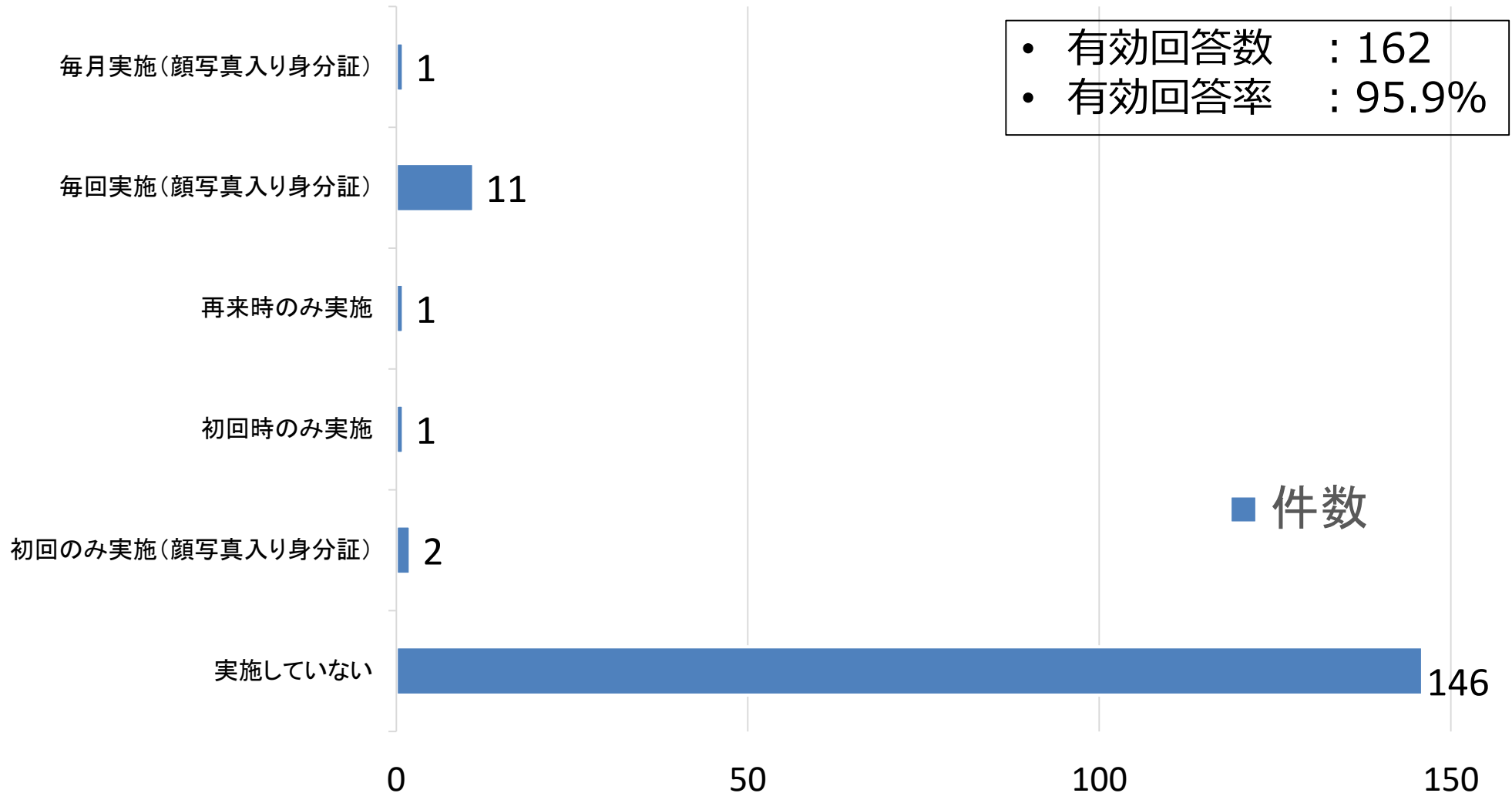
オンライン診療を開始する際に、どのように診療計画を作成していますか。（複数回答）

「対面時に書面にて作成している」が98件で最も多く、次いで、「対面診療時に電子媒体にて作成している」が19件となっている。



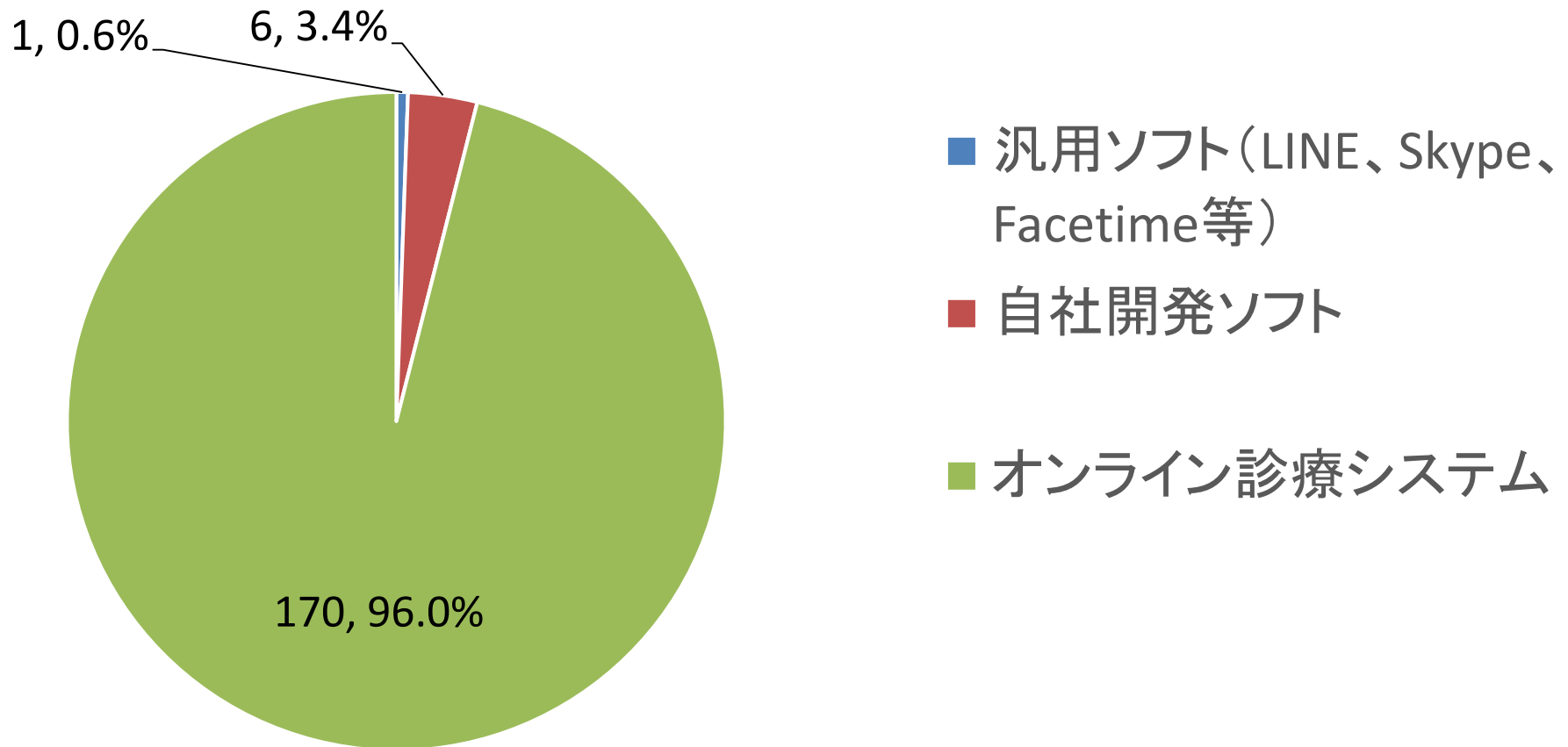
患者様の本人確認は行なっていますか。 N=169

「実施していない」が146件で最も多く、次いで「毎回実施（顔写真入り身分証）」が11件となっている。



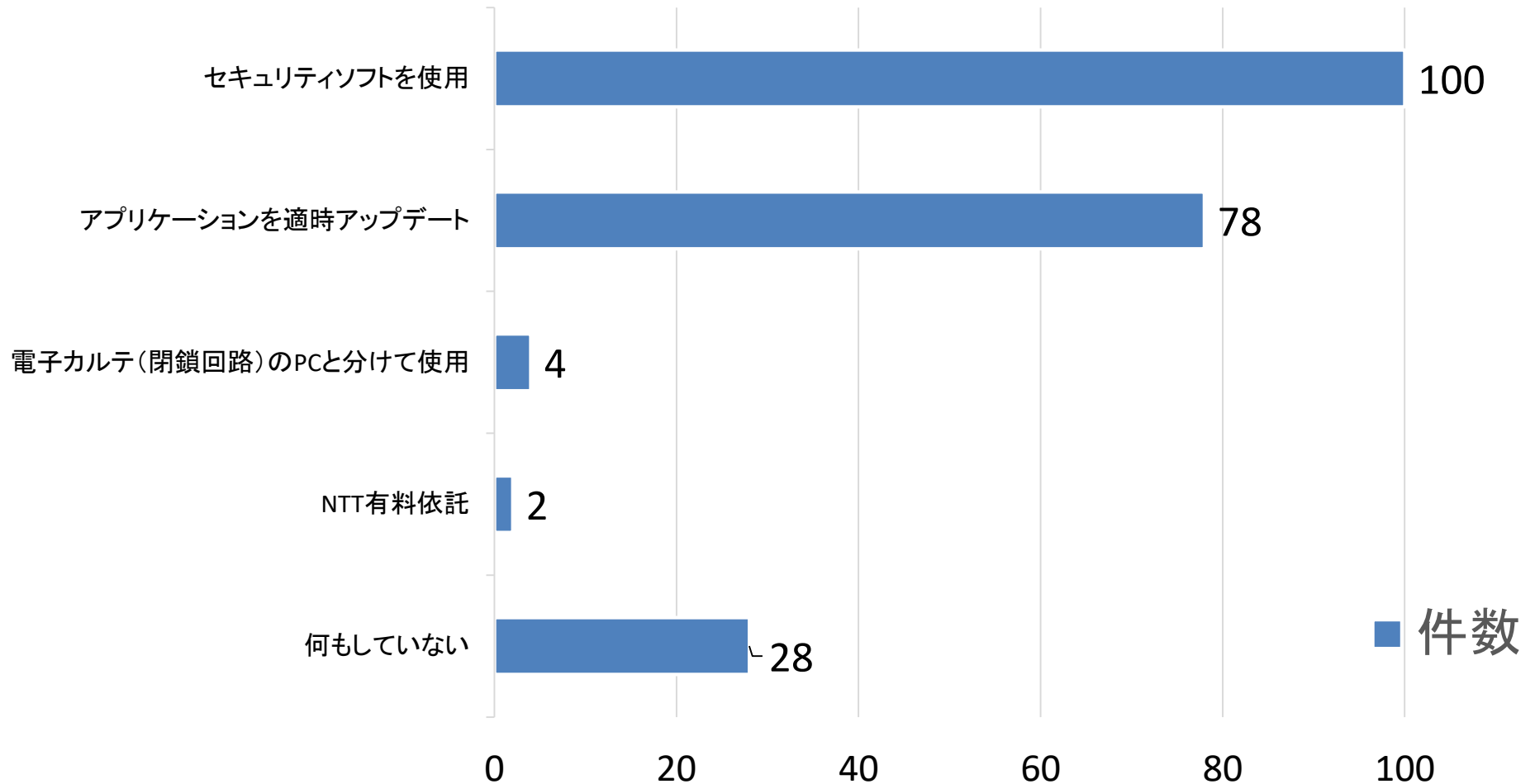
現在、オンライン診療を行うためにオンライン診療システムを導入していますか。
(複数回答)

「オンライン診療システム」が96.0%で最も多く、次いで、「汎用ソフト（LINE、Skype、Facetime等）」が3.4%となっている。



セキュリティ対策として実施していることは何ですか。（複数回答）

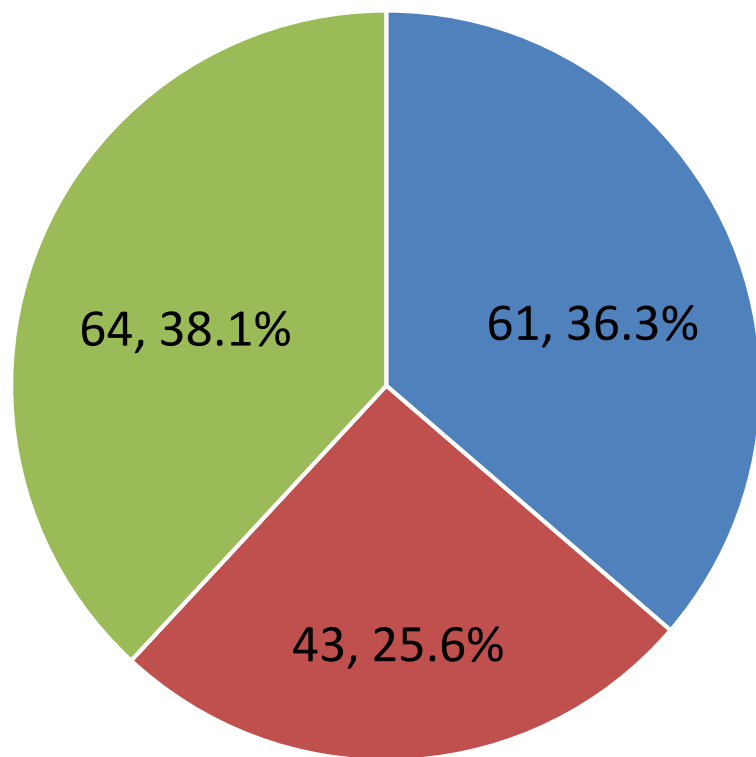
「セキュリティソフトを使用」が100件で最も多く、次いで、「アプリケーションを適時アップデート」が78件となっている。



オンライン受診勧奨（主に初診において、患者の症状に対して受診すべき適切な診療科を案内することなど）を実施していますか。 N=169

「今後実施予定なし」が38.1%で最も多く、次いで、「実施している」が36.3%となっている。

- 有効回答数 : 168
- 有効回答率 : 99.4%

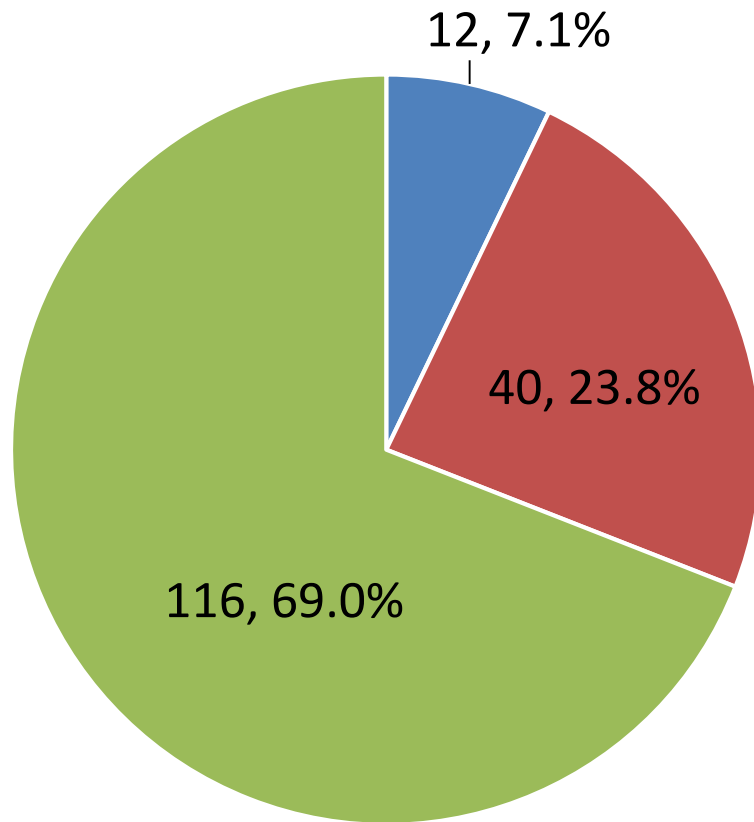


- 実施している
- 今後実施予定あり
- 今後実施予定なし

セカンドオピニオンをオンラインで実施していますか。 N=169

「今後実施予定なし」が69.0%で最も多く、次いで、「今後実施予定あり」が23.8%となっている。

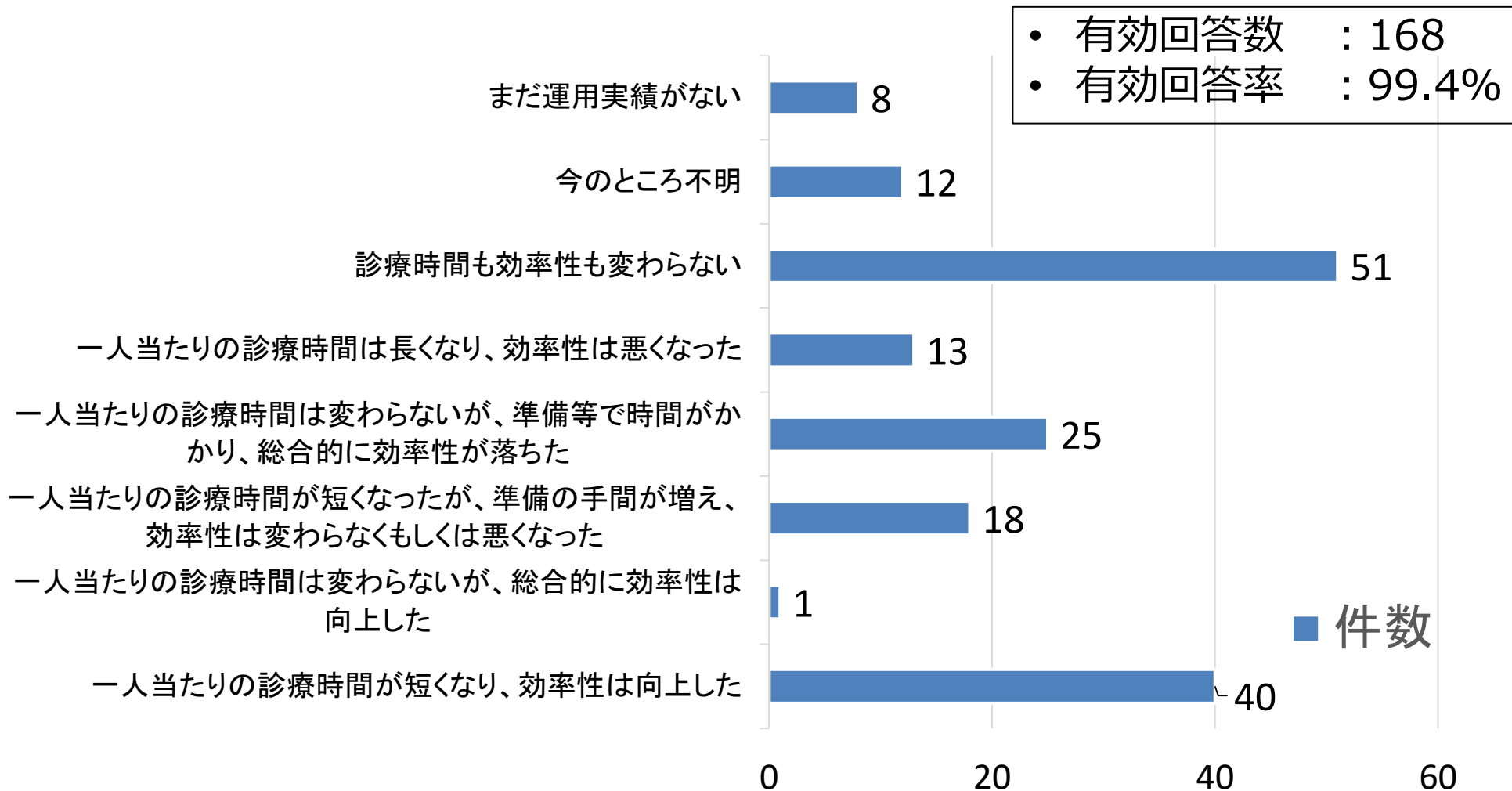
- 有効回答数 : 168
- 有効回答率 : 99.4%



- 実施している
- 今後実施予定あり
- 今後実施予定なし

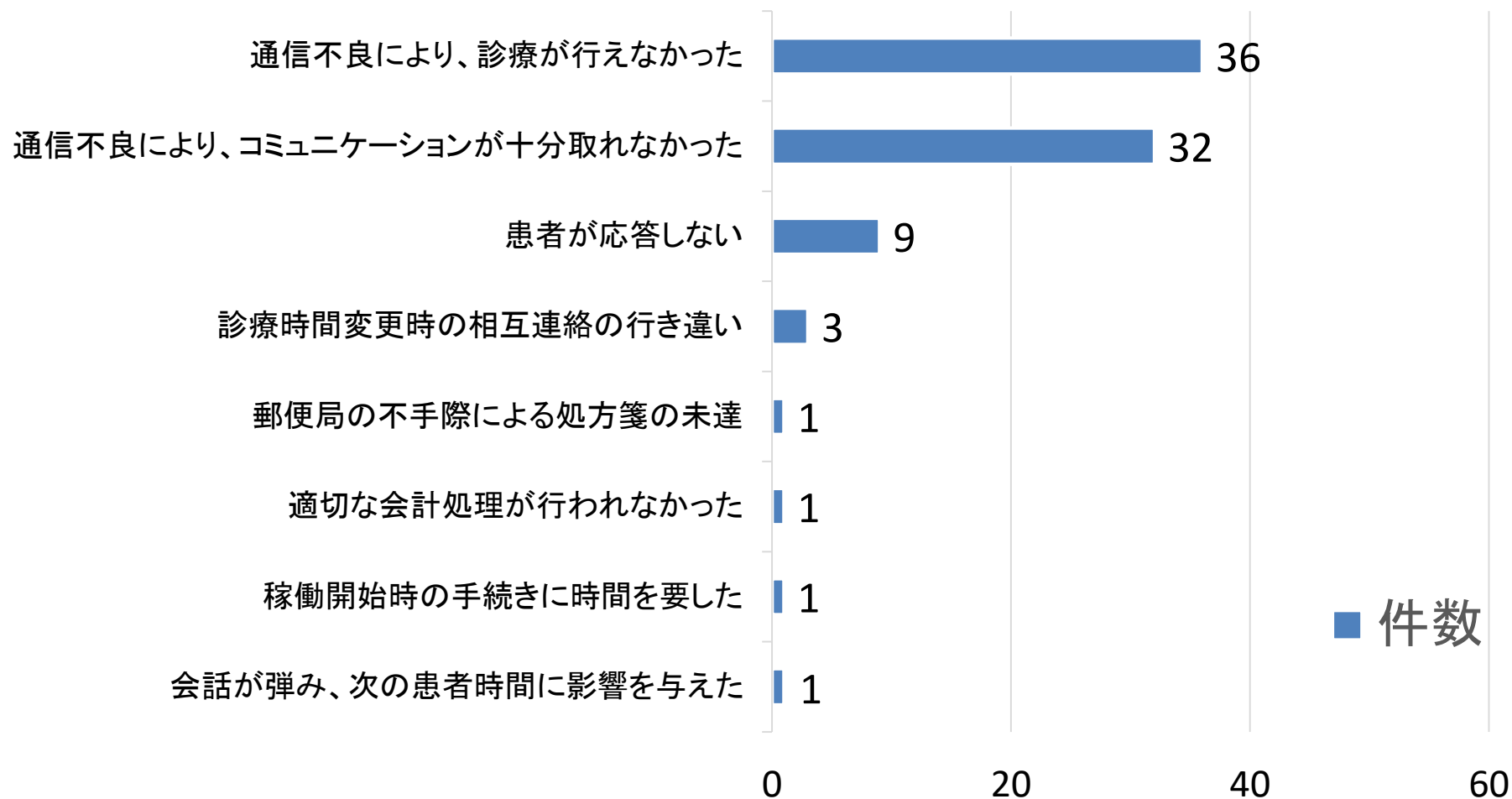
オンライン診療を導入して、診療時間が短縮されるなど効率性は上がりましたか。 N=169

「診療時間も効率性も変わらない」が51件で最も多く、次いで、「一人当たりの診療時間が短くなり、効率性は向上した」が40件となっている。



オンライン診療の実施に当たって経験したトラブルがあれば選択してください。（複数回答）

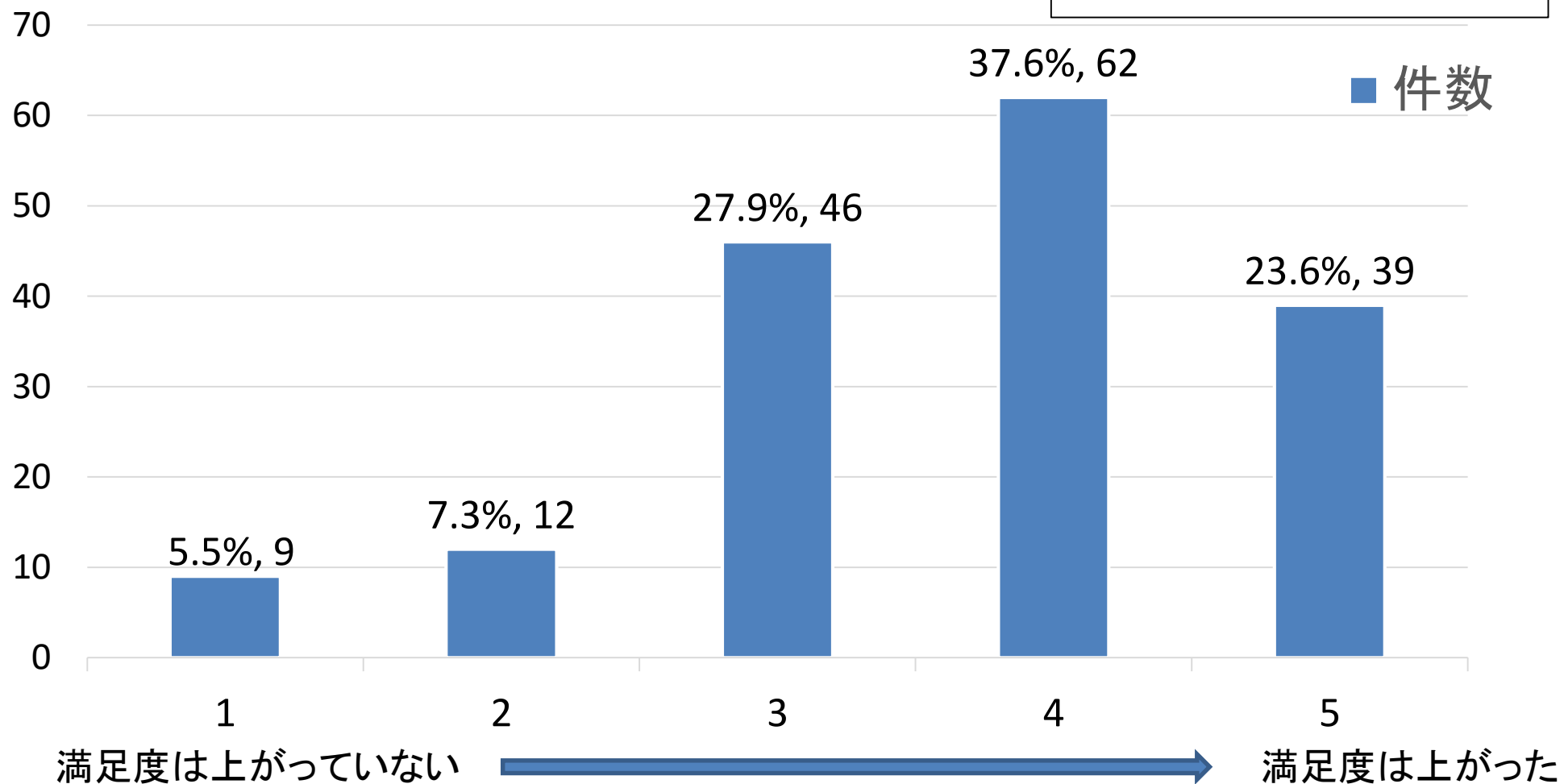
「通信不良により、診療が行えなかった」が36件で最も多く、次いで、「通信不良により、コミュニケーションが十分取れなかった」が32件となっている。



オンライン診療を利用している患者の満足度は上がったと思いますか。 N=169

「満足度4」が37.6%で最も多く、次いで、「満足度3」が27.9%となっている。

- 有効回答数 : 165
- 有効回答率 : 97.6%



セカンドオピニオンとして提供しているサービスについて教えてください。

(対象疾患、患者に伝達する内容、治療方針について伝達する程度など)

例：主には膵癌の方を対象に、重粒子線療法の概要と適応について説明し、適応の有無について助言しご希望される場合は、受診を勧奨し、予約を入れます。適応がない場合は、元の医療機関の受診を勧めています。

<診療相談>

- 小児の腎疾患の相談
- 症状および診療内容相談
- 癌の治療についての相談に対するアドバイス
- 脳外科疾患に対する治療方針や適応についての説明をし、必要があれば後日来院していただき詳細を説明させていただく。
- 痛風、高尿酸血症患者を対象に治療内容の説明や療養上のアドバイス、希望される場合はクリアランス検査による病型分類実施のため受診を勧めている。受診が難しい場合は、主治医と相談しながら治療継続を勧めます。
- 腰や首の痛み、手足のしびれなどの脊椎疾患でお困りの方に対し、MRI等の画像データを確認させていただいた上で、今後の治療に関する方向性や診療内容などの参考とする目的で意見だし。

<その他>

- 白内障手術についての一般的なサービス提供
- 脊椎疾患で手術に必要性あるいは術式のセカンドオピニオン
- リスクが高い患者に関しては基幹病院受診をお願いしている
- 癌(疑いを含む)/難病等、専門性が高い疾病の方を対象に、適切な病院の先生を教えて、希望があれば対面診療をして予約をとり診療情報提供書を書いている。
- 生活習慣病の指導、腎臓病・腎代替療法に対しての情報提供
- 摂食嚥下障害、身体機能障害についてかかりつけ医に相談するポイントを助言
- 糖尿病治療などで色々な紹介